

教科	社会科	学年	2年	標準授業時間数	105時間(週3時間)
----	-----	----	----	---------	-------------

目 標	教科目標	広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる民主的・平和的な国家や社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養う。
	具体目標 (到達目標)	<p>地理的分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本や世界の地理的事象に対する関心を高める。 ○広い視野に立って国土の地域的特色を考察し理解する。 ○地理的な見方や考え方の基礎を培う。 ○我が国の国土に対する認識を養う。 <p>歴史的分野</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日本や世界の歴史的事象に対する関心を高める。 ○我が国の歴史の概要と時代の特徴を世界の歴史を背景に理解する。 ○我が国の文化と伝統の特徴を広い視野に立って考察する力を養う。 ○我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を養う。

評 価	観	社会事象への 関心・意欲・ 態度	25 %	我が国の地理・歴史的事象に関心を持ち、それらを意欲的に追究し、広い視野から、我が国の地理・歴史的特色を認識しようとする。
	点	社会的な 思考・判断	25 %	地理・歴史的事象を多面的・多角的に考察し、各地域の人々の生活や文化の特色を把握して、公正に判断しようとする。
		資料活用 の技能・表現	25 %	地図・統計・史料など各地域に関する様々な資料を、適切に取捨選択し活用するとともに、各種レポートなどを作成し、発表・討論にも積極的に参加しようとする。
	価	社会的事象 についての知識 ・理解	25 %	世界の地理や歴史を大観し、我が国の主な地理・歴史的事象と世界との結びつきについて、比較関連させながら理解し、知識を整理しようとしている。
材 料		定期テスト・小テスト・各種レポート・ノート整理・授業態度・自己評価表		
方 法		単元(教科書の章や節など)が終わるごとに、上記の材料を使い、個々の理解がどこまで深まっているかを確認しつつ評価をおこなう。		

学 習 方 法 の 進 め 方	使用教材	教科書(地理・歴史：東京書籍)・副教材・プリント
	学習形態	<ul style="list-style-type: none"> ○知識の伝達や発表の時には一斉授業(全員が前をむいて説明を聞く)とする。(課題を考えるときは、少人数のグループで行うときもある。) ○思考・判断を評価するときや作業の際にはグループでの調べ学習もある。 ○調査活動では図書室やコンピュータ室を使用することもある。
	学 校	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本を確実に身につけさせるため学習内容を厳選し、単元ごとに小テストかレポート作成等を行い、目標に対する到達度をはかっている。 ○生徒一人一人の興味・関心に応じるため、調べ学習の時間を確保して、その能力の伸長をはかる。 ○繰り返して指導を行うことで、「つまずき」を克服したり、課題にじっくり取り組ませたりしてきめ細かな指導を行う。 ○学ぶことの楽しさを体験させ、学習に対する意欲を高める工夫をする。(意欲的な発表・発言ができるような学習規律をつくる) ○自分の学習の目標を定め、毎授業時間ごとに授業の振り返りを行う。 ○社会的事象に関心を持たせるために新聞も活用する。
家 庭	<ul style="list-style-type: none"> ○単元が終わるごとに「まとめ」をつくり、自分で知識を整理する。 ○事前に教科書・副教材などを読み、授業で質問したい、みんなに考えてもらいたい事項をはっきりさせておく。 ○提出物は締め切り前に提出できるよう準備を早めに行う。 ○忘れ物をしないよう関連教材は必ずひとまとめにし、管理する。 ○重要語句や年号は繰り返し、書きながら覚える。 	

年間授業計画

月	学 習 の 内 容	時数	学 習 の ポ イ ン ト
4	第2編 地域の規模に応じた調査 第3章 世界の国々の調査 1 多面的に調べよう	1 2	○貿易・気候・南北問題などを通して、大きな視野に立って全体を見ていく視点や方法を身につけようとする。 ○人々がどんな仕事をし、どのように生活を送っているか共感しながら学習を進めている。 ○比較・関連づける力を伸ばしながら、各地域の特色を把握していく。
5	2 テーマを決めて調べよう 3 比較や関連の視点から調べよう		
6	第3編 世界から見た日本のすがた 第1章 さまざまな面から見た日本 1 日本の自然環境	3 0	
7	2 日本の人々のくらし 3 世界と日本の人口 4 世界と日本の産業・資源 5 広がる地域間の結びつき		○さまざまな国土の特色を、地域間の比較や関連づけの作業の中から、類似性や傾向を見だし、明らかにすることができる。 ○事例学習を通して具体的にその特色をつかむことができる。
9	第2章 さまざまな視点から見た日本 ※調べ学習として扱い、夏季休業中の課題にする。	5	○学んだ成果を相互に関連づけて、日本の地域的特色を明らかにする活動に意欲的に取り組める。 ○世界や日本全体という視野から見た日本の地域的特色を大観し、要約して説明・表現ができる。 ○調査から得られたデータを適切な方法で表現できる。
10	第4章 近世の日本 1 ヨーロッパ人との出会いと全国統一 2 江戸幕府の成立と鎖国 3 産業の発達と幕府政治の動き	1 8	○織豊政権や江戸幕府の統一事業を通して新しい安定した社会が生まれ、その社会が長く続いたことを理解する。 ○東南アジアへの日本人の渡航やヨーロッパ文化と出会いなど対外的な関係が限定されて行った過程がわかる。 ○社会や経済のしくみの変化から行き詰まっていく原因を考える。 ○産業や交通の発達で町人文化や地方の生活文化が形成されて行った様子を文化財や資料から把握し、文化財を尊重する態度を養う。
11	第5章 開国と近代日本の歩み 1 欧米の進出と日本の開国 2 明治維新 3 日清・日露戦争と近代産業	2 1	○開国から明治維新をへて近代国家になっていく過程を欧米諸国の動きとの関わりの中で理解する。 ○明治維新のあらましを政策を通して近代国家の基礎を整えていった人々の努力や生活の変化について多面的多角的にとらえることができる。 ○近代化を進めた日本の国際的な地位が高まったことや大陸との関係を自由民権運動・大日本帝国憲法の制定、日清・日露戦争、条約改正を通して理解する。 ○近代産業が産業革命をへて発展したことを理解し、近代文化がつくられ、大衆のものになったことに気づく。
12			
1	第6章 二度の世界大戦と日本 1 第一次世界大戦とアジア・日本 2 世界恐慌と日本の中国侵略 3 第二次世界大戦とアジア	1 3	○第一次世界大戦前後の国際情勢を背景に、対外関係や日本国民の政治的自覚が高まったことを理解する。 ○この時代の日本の政治・経済・外交の動きを東アジア諸国との関係や欧米諸国の動きに着目して経済の混乱から社会懇代、軍部の台頭、戦争の勃発から終結までの経過を理解し、戦時下の国民の生活や戦争の惨禍についても関心を持つ。
2			
3	第7章 現代の日本と世界 1 日本の民主化と国際社会への復帰 2 国際社会と日本	6	○第二次世界大戦後日本の民主化と再建、国際社会への復帰について世界と関連させながら理解する。 ○国際協調や発展途上国の動向に注目し、国際社会における我が国の役割について考察できる。
合 計 時 数		105	

